

北田池 L 字型防空壕 現地見学会資料

(2022. 11 改訂版)

令和 4 年 7 月 23 日 (土)、24 日 (日)
30 日 (土)、31 日 (日)

1. 防空壕と姫路海軍航空隊

約 80 年前、日本も含め第二次世界大戦という世界的な戦争が行われました。

昭和 18 年 3 月、ここ加西市鶉野町周辺でも、海軍のパイロット練習部隊を設置するため軍事施設の造成工事が開始され、同年 10 月に姫路海軍航空隊が開隊されました。

目の前にあるコンクリート製の防空壕も、姫路海軍航空隊の軍事施設の一つです。開隊までに完成していたのか、追加工事で造られたのか、この防空壕の完成時期は不明です。

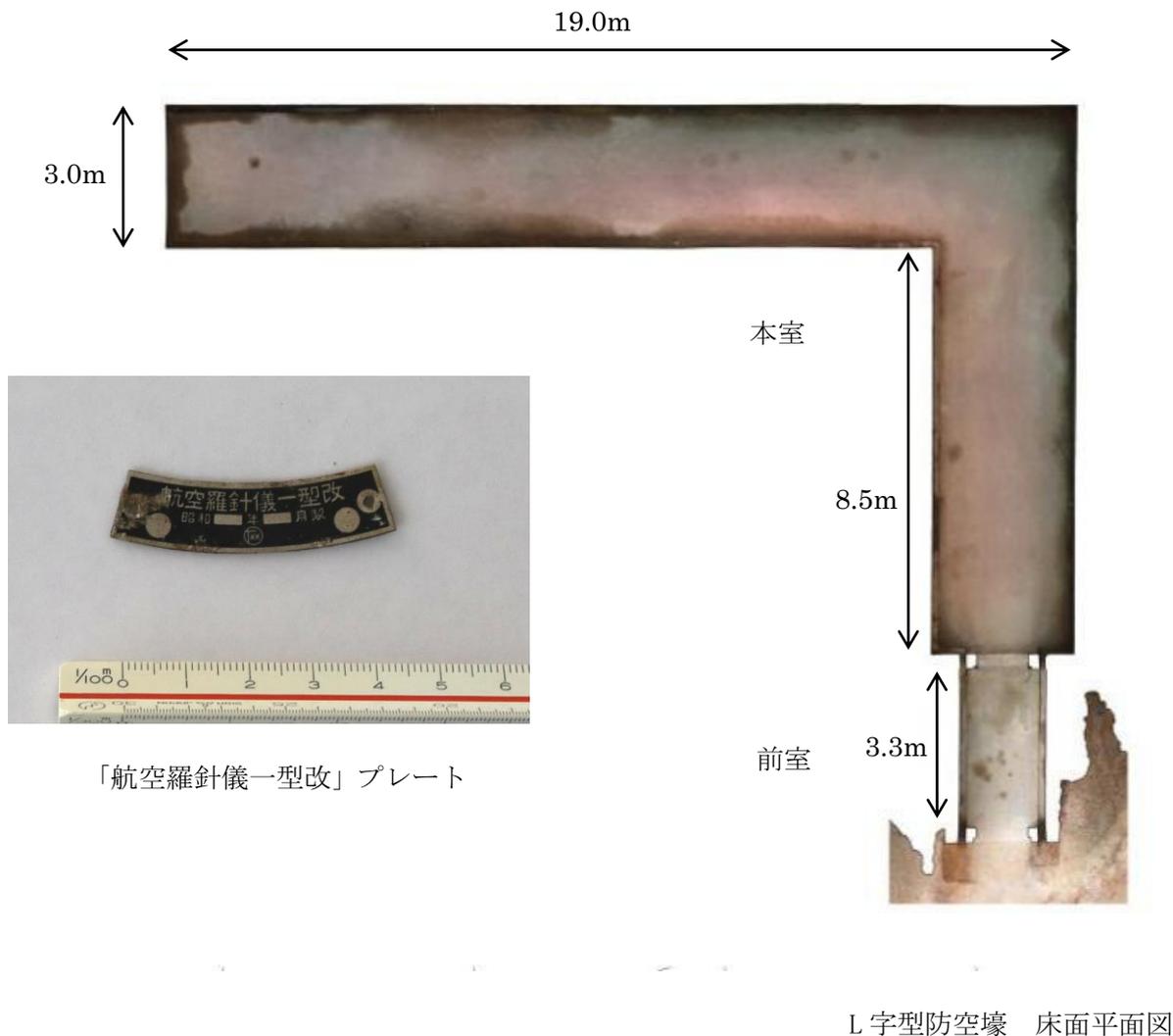
戦後作成された占領軍への引渡目録に基地概要図がありますが、コンクリート製防空壕の記載がありません。この防空壕の具体的な用途はわかりませんが、位置的には基地の西端にあたり、送信所の近くになります。



姫路航空基地概要図（防衛研究所戦史研究センター所蔵）に防空壕の位置を加筆

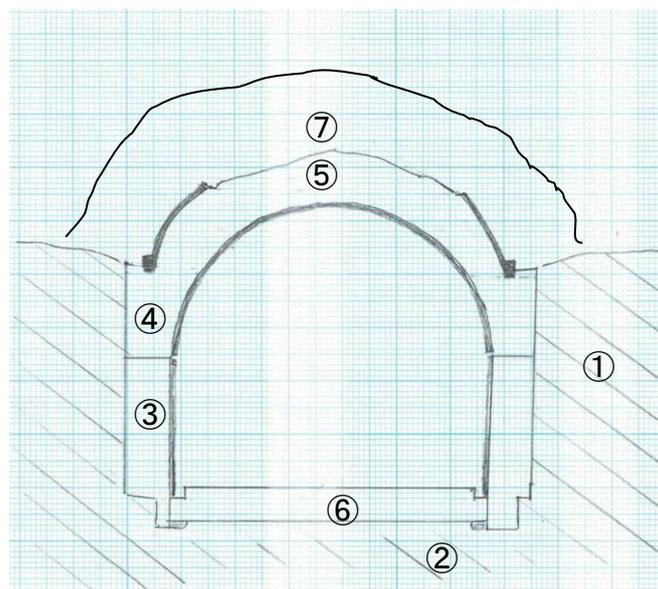
2. 北田池 L 字型防空壕

- ① 形状 平面形状はL字型（本来、地上部は土で覆われる）。
入口に小さい前室があり、内扉を隔ててL字型の本室が設けられている。
内部の天井部はアーチ状。
本室の前室側上部と奥壁に換気口があり、床面には排水溝がめぐる。
- ② 規模 前室 幅 1.8m 全長 3.3m 高さ 2.1m コンクリート厚 0.3m
本室 幅 3.0m 全長 8.5m + 幅 3.0m 全長 19.0m 高さ 2.7m
コンクリート厚 壁 0.35m 天井部 0.45m
- ③ 出土品 床面排水溝から
「航空羅針儀一型改」プレート（飛行機用の方位磁石の型番を示すプレート）
碍子（がいし）（電線を支え絶縁する陶磁器製の器具）など



3. 防空壕の構築手順（コンクリートの内外面に残されたさまざまな痕跡をご覧ください。）

- ① 丘陵斜面地を防空壕の平面形に合わせて掘る。
（外壁面の凹凸は、当時スコップや鍬で斜面地を掘削したときのへこみがコンクリートに写し取られた痕跡です。北田池に向かって傾斜していることが判ります。）
- ② 側壁設置部分に細い溝を掘り砂利を入れるなど、床面を整える。
- ③ 側壁のコンクリートを打設する。（外側は掘った壁面、内側は木製型枠を使用）
（外面、内面ともに、側壁と天井部の境目が明確に観察できます。内面は場所により型枠の板材の方向が異なります。）
- ④ 天井部のコンクリートを打設する（外側は土壁面と木製型枠、内側は木製型枠を使用）
- ⑤ 最上部のコンクリートを打設する。（コンクリート打ちっぱなし、仕上げ加工無）
- ⑥ 床のコンクリート打設。（表面仕上げ調整、この時に排水溝も調整）
- ⑦ 完成した防空壕に土をかぶせて覆う。（小山に見えるようにカモフラージュ）



標準断面

4. 終わりに

今回の調査では、コンクリート製防空壕の3Dレーザー測量を実施しています。

今後、この測量成果を用い、WEB上でこの防空壕を見ていただけるような取り組みも検討してまいります。